



XCP をインストール

XCP

NetApp
January 22, 2026

目次

XCP をインストール	1
XCPのインストールを準備します	1
ワークフローのインストールと設定	1
XCP をダウンロードします	3
XCP のライセンス	3
システムを準備	3
XCP NFS 用 Linux を準備します	3
カタログを構成します	3
ストレージを設定する	4
root ユーザ	4
root 以外のユーザ	4
XCP SMB 用に Windows を準備します	4
ストレージを設定する	5
Windows クライアントを設定します	5
ファイル分析を準備	6
XCP NFS をインストールします	7
root ユーザに XCP NFS をインストールします	7
root 以外のユーザに XCP をインストールします	9
XCP SMB をインストールします	10
XCP SMB Microsoft VC++ 再頒布可能ファイルのインストール	11
XCP SMB Initial Setup 手順の略	11
File Analytics for NFS をインストールします	12
SMB 向けファイル分析をインストール	13
SMB 向けファイル分析の新規インストール	14
SMB 向けファイル分析のアップグレード	14

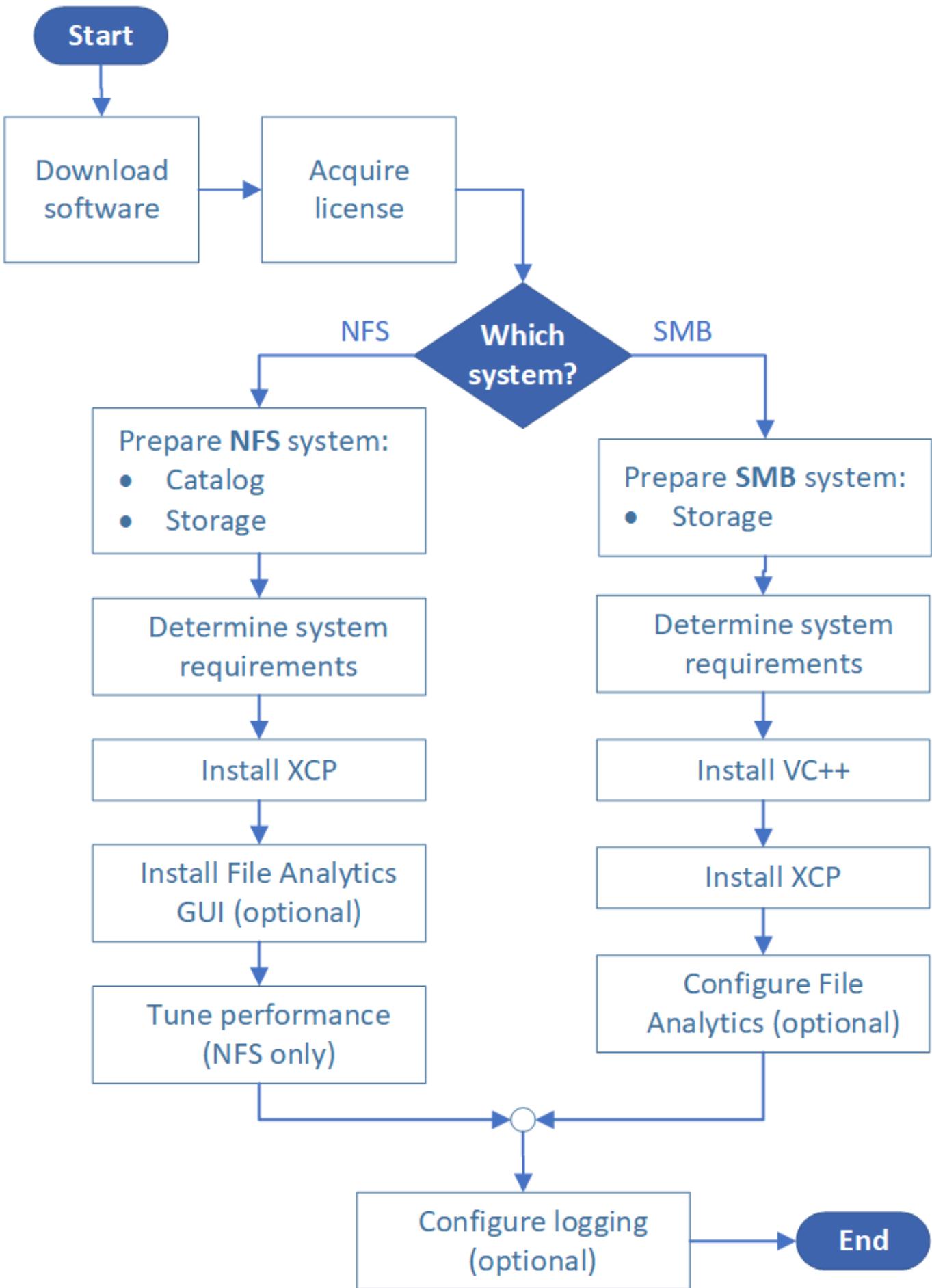
XCP をインストール

XCPのインストールを準備します

インストールの準備として、XCPをダウンロードしてライセンスを取得し、システムを準備します。

ワークフローのインストールと設定

このドキュメントでは、NFS システムおよび SMB システムに XCP をインストールしてセットアップするための簡単なワークフローを紹介します。



XCP をダウンロードします

ネットアップサポートサイトから XCP をダウンロードし、XCP サイトからライセンスを取得します。

XCP はからダウンロードできます "ネットアップサポートサイト"。

XCP のライセンス

NetAppでは、1年間のXCPライセンスを無料で提供しています。ライセンスファイルは、から取得できます "XCP サイト"。ライセンスポータルでは、さまざまなライセンスオプションが提供されています。1年後には、同じポータルを使用して別の年のライセンスを更新できます。

XCP ライセンスは、オフラインまたはオンラインライセンスとして提供されています。移行の統計情報を送信する場合は、オンラインライセンスを使用します。オンラインライセンスを使用するには、インターネットに接続する必要があります。オフラインライセンスではインターネット接続は必要ありません。

XCP 1.9.3以降を実行するには、から新しいXCPライセンスを取得する必要があります。 "XCP サイト"。



XCP 1.9.2以前で使用されているライセンスは、XCP 1.9.3以降ではサポートされません。同様に、XCP 1.9.3以降で使用されるライセンスは、XCP 1.9.2以前ではサポートされません。

システムを準備

使用するポート "Linux システムでの XCP NFS"では、カタログとストレージを準備する必要があります。

使用するポート "Microsoft Windows システムでの XCP SMB"ストレージを準備する必要があります。

XCP NFS 用 Linux を準備します

XCP NFS は、Linux クライアントホストシステムを使用して並列 I/O ストリームを生成し、使用可能なネットワークとストレージのパフォーマンスを最大限に活用します。

root ユーザと root 以外のユーザに対して設定を行ったあと、設定に応じてどちらかのユーザを選択できます。

カタログを構成します

XCP は、NFSv3 からアクセス可能なカタログディレクトリまたは必要な権限を持つすべての POSIX パスに処理レポートとメタデータを保存します。

- カタログのプロビジョニングは、インストール前の 1 回限りの作業です。
- 1,000 万個のオブジェクト（ディレクトリ、ファイル、ハードリンク）ごとに約 1GB のスペースがインデックス化されます。再開または同期可能な各コピーと、オフラインで検索可能な各スキャンにはインデックスが必要です。
- パフォーマンスをサポートするには、エクスポートディレクトリを含むアグリゲートに少なくとも 10 本のディスクまたは SSD が必要です。



XCP カタログは別途保存する必要があります。ソースまたはデスティネーションの NFS エクスポートディレクトリに配置されていない。XCP はメタデータを維持します。メタデータは、初期セットアップで指定したカタログ上の場所にあるレポートです。XCP を使用して処理を実行する前に、レポートの保存先を指定して更新する必要があります。

ストレージを設定する

XCP NFS の移行および移行には、ソースとターゲットのストレージに関する次の要件があります。

- ソースサーバとターゲットサーバで、 NFSv3 または NFS v4.0 プロトコルサービスを有効にしている必要があります。
 - NFSv4 ACL を移行する場合は、デスティネーションサーバで NFSv4 プロトコルサービスと NFSv4 ACL を有効にする必要があります。
- ソースボリュームとターゲットボリュームは、 XCP Linux クライアントホストへの「root」アクセスでエクスポートされる必要があります。
- NFSv4 ACL を移行するには、 ACL の移行が必要なボリュームにエンコード言語 UTF-8 を使用する必要があります。
 - 管理者が誤ってソースボリュームを変更しないようにするには、 NFSv3 および NFSv4 エクスポートディレクトリのソースボリュームを読み取り専用として設定する必要があります。
 - ONTAP では、ソースオブジェクトに atime を保持するには、 diagnostic 「-atime-update」 オプションを使用します。この機能は ONTAP でのみ使用でき、 XCP の実行中にソースオブジェクトで atime を保持する場合に便利です。
 - XCP では、「-preserve -atime」 オプションを使用してソースオブジェクトに atime を保持できます。このオプションは、ソースオブジェクトにアクセスするすべてのコマンドで使用できます。

root ユーザ

Linux マシンの root ユーザには、ソースボリューム、デスティネーションボリューム、カタログボリュームをマウントする権限が付与されています。

root 以外のユーザ

root以外のユーザには、マウントされたボリュームに対する次の権限が必要です。

- ソースボリュームへの読み取り権限アクセス
- マウントされたデスティネーションボリュームへの読み取り / 書き込み権限
- カタログボリュームへの読み取り / 書き込み権限

XCP SMB 用に Windows を準備します

XCP SMB は、 Windows クライアントホストシステムを使用して並列 I/O ストリームを生成し、使用可能なネットワークとストレージのパフォーマンスを最大限に活用します。

ストレージを設定する

XCP SMB の移行および移行には、次のユーザログイン要件があります。

- ・ XCP ホストシステム：XCP ホストユーザには管理者権限が必要です（ターゲットSMBサーバの「BUILTIN\Administrators」グループに属している必要があります）。
- ・ Active Directory の監査ログポリシーとセキュリティログポリシーに移行または XCP ホストユーザを追加します。Windows 10 で「監査とセキュリティログ」ポリシーを見つけるには、次の手順に従います。

手順

- [* グループポリシーエディタ *] ダイアログボックスを開きます。
- [* コンピューターの構成]、[Windows の設定]、[セキュリティの設定]、[ローカルポリシー]、[ユーザー権利の割り当て *] の順に選択します。
- 監査ログとセキュリティログの変更 * を選択します。
- XCP ホスト・ユーザを追加するには、* Add User または Group * を選択します。

詳細については、を参照してください ["監査とセキュリティログを管理します"。](#)

- ・ ターゲットストレージシステム：XCP ホストユーザに読み取りおよび書き込みアクセスが必要です。
- ・ ソースストレージシステム：
 - ユーザがソース・ストレージ・システムの Backup Operators グループのメンバーである場合、これらのファイルを保護する権限に関係なく、このグループのメンバーはセキュリティ・ルールを使用せずにファイルを読み取ることができます。
 - ユーザがソースシステムの「Backup Operators」グループに属していない場合は、そのユーザに読み取りアクセス権が与えられている必要があります。



XCP オプション「-preserve -atime」をサポートするには、ソースストレージシステムに書き込み権限が必要です。

Windows クライアントを設定します

- ・ デスティネーションストレージボックスとソースストレージボックスをホストファイルに追加します。
 - 「(C:\Windows\System32\drivers\etc\hosts」の場所に移動します
 - ファイルに次の形式でホストエントリを挿入します。
「<ソースデータ Vserver データインターフェイス IP> <ソース CIFS サーバ名 >< デスティネーションデータ Vserver データインターフェイス IP> <Destination CIFS サーバ名 >」のように設定します
- ・ 例 *

```
# Copyright (c) 1993-2009 Microsoft Corp.
#
# This is a sample HOSTS file used by Microsoft TCP/IP for Windows.
#
# This file contains the mappings of IP addresses to host names. Each
# entry should be kept on an individual line. The IP address should
# be placed in the first column followed by the corresponding host name.
# The IP address and the host name should be separated by at least one
# space.
#
# Additionally, comments (such as these) may be inserted on individual
# lines or following the machine name denoted by a '#' symbol.
#
# For example:
#
#      XXX.XX.XX.XX          rhino.acme.com      # source server
#      XX.XX.XX                x.acme.com          # x client host
#
# localhost name resolution is handled within DNS itself.
#      127.0.0.1            localhost
#      ::1                  localhost
#      00906A52DFE247F
xx.xxxx.xxxx.xxxx  42D1BBE1219CE63
```

ファイル分析を準備

File Analytics を使用したデータ移行の準備。

File Analytics には次の 2 つの部分があります。

- Linux 上で実行されている File Analytics サーバ
- Windows で実行されている XCP SMB サービス

File Analytics のインストールには、次の要件があります。

- サポートされる OS およびシステム要件は、NFS および SMB のインストールの場合と同じです。データベースは Linux マシンに配置されるため、10GB 以上の空きスペースが必要です。
- File Analytics サーバーをインストールする Linux マシンは、インターネットまたは yum リポジトリに接続されている必要があります。インストールスクリプトが yum リポジトリと通信し、PostgreSQL、HTTP、SSL などの必要なパッケージをダウンロードします。
- File Analytics GUI は、同じボックスで実行されている Linux 用の XCP サービスと共に Linux マシンでのみホストできます。
- SMB サービスを実行する場合は、次の手順を実行します。
 - ファイル分析サーバが実行されている Linux マシンに対して Windows ボックスから ping が実行されていることを確認します。

- ファイアウォールの内側にいる場合は、ポート 5030 と 5432 が開いていることを確認します。ポート 5030 は、Windows への REST 呼び出しに使用されます。PostgreSQL 接続にはポート 5432 ポートが使用されます。

i XCP File Analytics サーバは常に Linux マシンで実行されます。SMB File Analytics には、個別のインストールはありません。Windows ユーザーで、SMB 共有のファイル分析を実行する場合は、File Analytics for Linux をインストールし、Windows ボックスを Linux データベースに接続する必要があります。XCP File Analytics のみを使用する場合は、NFS 用に XCP Catalog を設定する必要はありません。

XCP NFS をインストールします

このセクションでは、Linux クライアントでの XCP の初期セットアップおよび INI ファイルの設定に関するシステム要件と手順について説明します。

- システム要件 *

項目	要件
システム	64ビット Intel または AMD サーバ、8コア以上、64 GB RAM
オペレーティングシステムとソフトウェア	を参照してください "IMT" サポートされているオペレーティングシステムの場合
特別な要件	ソースとデスティネーションの NFSv3 エクスポートへのネットワーク接続とルートレベルのアクセスでは、他のアクティブなアプリケーションは使用できません
ストレージ	XCP バイナリ用に 20 MB のディスクスペース、および /opt/NetApp/xFiles/XCP ディレクトリに格納されているログ用に 50 MB 以上のディスクスペース
サポートされているプロトコルバージョン	NFSv3 と NFSv4 (POSIX と ACL)
サポートされているブラウザ (File Analytics のみ)	を参照してください "IMT" XCP File Analytics でサポートされているすべてのブラウザバージョンのマトリックス。



ライブソース移行の推奨構成は、8 コアと 64GB RAM です。

root ユーザに XCP NFS をインストールします

root ユーザには次の手順を使用して XCP をインストールできます。

手順

- root ユーザとして Linux マシンにログインし、ライセンスをダウンロードしてインストールします。

```
[root@scspr1980872003 ~]# ls -l
total 36188
-rw-r--r-- 1 root root 37043983 Oct  5 09:36 NETAPP_XCP_<version>.tgz
-rw-----. 1 root root       1994 Sep  4 2019 license
```

2. ツールを抽出するには、XCPを解凍します。

```
[root@scspr1980872003 ~]# tar -xvf NETAPP_XCP_<version>.tgz
[root@scspr1980872003 ~]# ls
NETAPP_XCP_<version>.tgz license xcp
[root@scspr1980872003 ~]# cd xcp/linux/
[root@scspr1980872003 linux]# ls
xcp
```

3. 以前のバージョンのXCPからシステムで/opt/NetApp/xFiles/XCPパスが利用可能であることを確認します。

「/opt/NetApp/xFiles/XCP」が使用可能な場合は、「xCP activate」コマンドを使用してライセンスをアクティビ化し、データ移行を続行します。

「/opt/NetApp/xFiles/XCP」が使用できない場合、「XCP activate」コマンドを初めて実行すると、システムはXCPホスト構成ディレクトリを「/opt/NetApp/xFiles/XCP」に作成します。

ライセンスがインストールされていないため 'XCP activate' コマンドは失敗します

```
[root@scspr1980872003 linux]# ./xcp activate
(c) yyyy NetApp, Inc.
xcp: Host config file not found. Creating sample at
' /opt/NetApp/xFiles/xcp/xcp.ini'

xcp: ERROR: License file /opt/NetApp/xFiles/xcp/license not found.
Register for a license at https://xcp.netapp.com
```

4. ライセンスを「/opt/NetApp/xFiles/XCP」にコピーします。

```
[root@scspr1980872003 linux]# cp ~/license /opt/NetApp/xFiles/xcp/
```

5. ライセンスファイルが /opt/NetApp/xFiles/XCP にコピーされたことを確認します。

```
[root@ scspr1980872003 ~]# ls -altr /opt/NetApp/xFiles/xcp/
total 44
drwxr-xr-x 3 root root 17 Oct 1 06:07 ..
-rw-r--r-- 1 root root 304 Oct 1 06:07 license
drwxr-xr-x 2 root root 6 Oct 1 10:16 xcpfalog
drwxr-xr-x 2 root root 21 Oct 1 10:16 xcplogs
-rw-r--r-- 1 root root 110 Oct 5 00:48 xcp.ini
drwxr-xr-x 4 root root 83 Oct 5 00:48 .
```

6. XCP のアクティブ化：

```
[root@scspr1980872003 linux]# ./xcp activate
XCP <version>; (c) yyyy NetApp, Inc.;

XCP activated
```

root 以外のユーザに XCP をインストールします

root 以外のユーザに XCP をインストールするには、次の手順を使用します。

手順

1. root 以外のユーザとして Linux マシンにログインし、ライセンスをダウンロードしてインストールします。

```
[user1@scspr2474004001 ~]$ ls -l
total 36640
-rwxr-xr-x 1 user1 user1      352 Sep 20 01:56 license
-rw-r--r-- 1 user1 user1 37512339 Sep 20 01:56
NETAPP_XCP_Nightly_dev.tgz
[user1@scspr2474004001 ~]$
```

2. ツールを抽出するには、XCP を解凍します。

```
[user1@scspr2474004001 ~]$ tar -xvf NETAPP_XCP_Nightly_dev.tar
[user1@scspr2474004001 ~]$ cd xcp/linux/
[user1@scspr2474004001 linux]$ ls
xcp
[user1@scspr2474004001 linux]$
```

3. 以前のバージョンの XCP からシステムで「/home/user1/NetApp/xFiles/XCP」パスが利用可能であることを確認します。

「/home/user1/NetApp/xFiles/XCP」パスが使用可能な場合は、「xCP activate」コマンドを使用してライセンスをアクティブにし、データ移行を続行します。

「/home/user1/NetApp/xFiles/XCP」が使用できない場合、「XCP activate」コマンドを初めて実行すると、システムは XCP ホスト構成ディレクトリを「/home/user1/NetApp/xFiles/XCP」に作成します。

ライセンスがインストールされていないため 'XCP activate' コマンドは失敗します

```
[user1@scspr2474004001 linux]$ /home/user1/xcp/linux/xcp activate
(c) yyyy NetApp, Inc.
xcp: Host config file not found. Creating sample at
'/home/user1/NetApp/xFiles/xcp/xcp.ini'

xcp: ERROR: License file /home/user1/NetApp/xFiles/xcp/license not
found.
Register for a license at https://xcp.netapp.com
[user1@scspr2474004001 linux]$
```

4. ライセンスを「/home/user1/NetApp/xFiles/XCP」にコピーします。

```
[user1@scspr2474004001 linux]$ cp ~/license
/home/user1/NetApp/xFiles/xcp/
[user1@scspr2474004001 linux]$
```

5. ライセンスファイルが「/home/user1/NetApp/xFiles/XCP」にコピーされたことを確認します。

```
[user1@scspr2474004001 xcp]$ ls -ltr
total 8
drwxrwxr-x 2 user1 user1 21 Sep 20 02:04 xcplogs
-rw-rw-r-- 1 user1 user1 71 Sep 20 02:04 xcp.ini
-rwxr-xr-x 1 user1 user1 352 Sep 20 02:10 license
[user1@scspr2474004001 xcp]$
```

6. XCP のアクティブ化：

```
[user1@scspr2474004001 linux]$ ./xcp activate
(c) yyyy NetApp, Inc.

XCP activated

[user1@scspr2474004001 linux]$
```

XCP SMB をインストールします



アップグレードするオプションはありません。既存のバージョンを置き換えるには XCP を再インストールしてください。

- ・システム要件 *

項目	要件
システム	64 ビット Intel または AMD サーバ、最小 4 コア、 32GB RAM
オペレーティングシステムとソフトウェア	Windows Server 2012 R2 以降。サポートされている Microsoft OS バージョンについては、を参照してください "Interoperability Matrix Tool で確認してください" 。Visual C++ 2017 再配布可能ファイルが XCP ホストにインストールされている必要があります。
特別な要件	ソースストレージシステム、 XCP ホスト、およびターゲット ONTAP システムが同じ Active Directory ドメインに属している必要があります
ストレージ	XCP バイナリ用に 20 MB のディスクスペース、および C : \NetApp\XCP ディレクトリに格納されているログ用に 50 MB 以上のディスクスペース
サポートされているプロトコルバージョン	すべての SMB プロトコルバージョン
サポートされているブラウザ (File Analytics のみ)	を参照してください "IMT" XCP File Analytics でサポートされているすべてのブラウザバージョンのマトリックス。

XCP SMB Microsoft VC++ 再配布可能ファイルのインストール

VC++ 再配布可能なインストールの手順は、次のとおりです。

手順

1. をクリックします ["VC++ 2017 再配布可能"](#) 実行ファイルをデフォルトのダウンロードフォルダにダウンロードします。
2. インストールを開始するには、インストーラをダブルクリックします。利用規約に同意して、「* Install *」を選択します。
3. インストールが完了したら、Windows クライアントを再起動します。

XCP SMB Initial Setup 手順の略

XCP SMB の初期セットアップを実行するには、次の手順を実行します。

手順

1. Windows クライアントでライセンスと XCP SMB バイナリ 「NetApp_XCP_<バージョン>.tgz」 をダウンロードします。
2. 「NetApp_XCP_」 ファイルを展開します。
3. をコピーします xcp.exe ファイルを Windows C: ドライブに保存します。このバイナリは NETAPP_XCP_<version>\xcp\windows を展開した後、 tgz ファイル。
4. 以前のバージョンの XCP からシステムで 「C : \NetApp\XCP」 パスが利用可能であることを確認します。 「C:\NetApp\XCP」 が利用可能な場合は、「xcp.exe activate」 コマンドを使用して XCP をアクティブにし、データ移行を続行します。

「C : \NetApp\XCP」 が使用できない場合は、最初に 「xcp.exe activate」 コマンドを実行するときに、 XCP ホスト構成ディレクトリが作成され、そのディレクトリが C:\NetApp\XCP にファイルされます。 「xcp.exe activate」 コマンドは失敗し、新しいライセンスを要求するエラーメッセージが表示され

ます。

```
C:\>xcp.exe activate
(c) yyyy NetApp, Inc.

License file C:\NetApp\XCP\license not found.
Register for a license at https://xcp.netapp.com
```

5. 新しく作成したフォルダ「C : \NetApp\XCP :」にライセンスをコピーします

```
C:\>copy license c:\NetApp\XCP
1 file(s) copied.
```

6. XCP のアクティブ化：

```
C:\>xcp.exe activate
XCP SMB; (c) yyyy NetApp, Inc.;

XCP activated

C:\>
```

File Analytics for NFS をインストールします

File Analytics for NFS をインストールまたはアップグレードします。

このタスクについて

NFSのシステム要件については、を参照してください。["XCP NFS をインストールします"。](#)

。 `configure.sh` スクリプトは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) ホストマシンにXCP File Analyticsをインストールします。インストールの一環として、Postgres Database、Apache HTTPDサーバ、およびその他の必要なパッケージがホストLinuxマシンにインストールされます。サポートされている特定のRHELバージョンについては、を参照してください。["IMT"](#)。必要に応じて、より新しいバージョンに変更または更新したり、セキュリティガイドラインに従って更新したりできます。詳細については、`configure.sh` スクリプト、実行 `./configure.sh -h` コマンドラインで実行します。

作業を開始する前に

- 実行中のXCP処理がある場合はNetApp、設定を開始する前に処理を完了することを推奨します。
- Linux マシンが Yum リポジトリサーバまたはインターネットに接続されている必要があります。
- Linuxマシンでファイアウォールが設定されている場合は、ファイアウォールの設定を変更して、XCPサービスで使用されるポート5030を有効にする必要があります。

手順

1. File Analytics for NFS をインストールまたはアップグレードします。

File Analyticsをインストール

- に移動します xcp フォルダを作成し、`./configure.sh` スクリプト：

インストールが正常に完了すると、次のメッセージが表示されます。

```
You can now access XCP file analytics using
(<username>:<password>)
https://<ip_address>/xcp
```



このユーザー名とパスワードを使用して、File Analytics GUIにログインできます。

ファイル分析をアップグレード

- に移動します xcp フォルダと実行 `./configure.sh -f`。
- プロンプトで、と入力します `y` システムをクリーンアップして再設定します。

スクリプトが承認されると、既存の設定がクリーンアップされ、システムが再構成されます。

成功すると、次のメッセージが表示されます。

```
You can now access XCP file analytics using
(<username>:<password>)
https://<ip_address>/xcp
```

2. サポートされているブラウザでファイル分析を起動します。* Linuxの`https://<ipアドレス>/XCP`。

を参照してください ["XCP NFS をインストールします"](#) サポートされるブラウザについては、を参照してください。

SMB 向けファイル分析をインストール

File Analytics for SMB をインストールまたはアップグレードします。

このタスクについて

SMB のシステム要件については、を参照してください ["XCP SMB をインストールします"](#)。

作業を開始する前に

- XCP SMB サービスを使用するには、Linux マシンで NFS 用に XCP File Analytics を設定する必要があります。

- Windows マシンで XCP File Analytics の構成を開始する前に、Linux マシンで XCP サービスが実行されていることを確認します。

SMB 向けファイル分析の新規インストール

SMB 向けファイル分析の新規インストールを実行するには、次の手順を実行します。

手順

1. をコピーします xcp.exe ファイルをWindowsに保存 C: ドライブ。このバイナリは /xcp/windows ツールを展開した後、 tgz ファイル。
2. から XCP ライセンスファイルをダウンロードします ["XCP サイト"。](#)
3. C:\NetApp\XCP というフォルダを作成し、 XCP ライセンスをこの場所にコピーします。
4. コマンドプロンプトで次のコマンドを使用して、 XCP ライセンスをアクティベートします。 xcp.exe activate
5. Windows CLI のコマンドプロンプトで、「 XCP configure 」を実行します。
6. プロンプトが表示されたら、 XCP File Analytics サーバが設定されている Linux マシンの IP アドレスを入力します。
7. をコピーします server.key および server.crt ファイル /opt/NetApp/xFiles/xcp/ (XCP File Analyticsがすでに設定されているLinuxボックスで) C:\NetApp\XCP。

必要に応じて、CA証明書がある場合は、 C:\NetApp\XCP 同じ名前と拡張子を持つ。

8. Windowsマシンに移動し、`xcp listen`では、XCP File Analytics for SMBの設定が完了しました。サービスを継続的に実行するには、ウィンドウを開いたままにします。
9. サポートされているブラウザでFile Analyticsを起動します。 `https://<ip address of linux>/xcp` を参照してください ["XCP SMB をインストールします" サポートされるブラウザについて" を参照してください。](#)
10. 選択するオプション OK ダイアログボックスが表示されたとき。



新しいタブが開きます。ブロックされている場合は、ブラウザのポップアップを有効にします。

11. URLのプライバシーポリシーに同意します。次のメッセージが表示されます。 `SMB agent is ready to use. Please refresh the analytics page`
12. XCP File Analytics GUIをホストする元のタブに戻り、ページを更新して、[Agents]カードの下にSMBエージェントを表示します。

SMB 向けファイル分析のアップグレード

SMB 向けの既存の File Analytics をアップグレードするには、次の手順を実行します。

1. File Analyticsを実行する前に、File Analyticsが実行されているLinuxサーバもアップグレードされていること、およびサービスが実行されていることを確認します。
2. Windows では、コマンドラインに「 CTRL-C 」と入力して、既存の XCP サービスを停止します。

3. 交換してください xcp.exe 最新のバイナリで。
4. Windowsマシンに移動し、 xcp listen XCP File Analytics for SMBを構成するには、次の手順に従います。サービスを継続的に実行するには、ウィンドウを開いたままにします。
5. サポートされているブラウザでFile Analyticsを起動します。 <https://<ip address of linux>/xcp> を参照してください "XCP SMB をインストールします" サポートされるブラウザについては、を参照してください。
6. ダイアログボックスが表示されたら、* OK *を選択します。



新しいタブが開きます。ブロックされている場合は、ブラウザのポップアップを有効にします。

7. URLのプライバシーポリシーに同意します。次のメッセージが表示されます。 SMB agent is ready to use. Please refresh the analytics page
8. XCP File Analytics GUIをホストする元のタブに戻り、ページを更新して、[Agents]カードの下にSMBエージェントを表示します。

著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。